

# 竹内縁を支えるルワンダの会 ニュースレター

No.9(2019年2月)



2019年が始まって、早や1か月が過ぎようとしています、ルワンダで働いている私にとって昨年は幾つかの大きな出来事がありました。今回のニュースレターでは、そのうちの2つをご紹介します。

一つは、非営利の団体・NGOを立ち上げたことです。これまでルワンダ人女性が立ち上げたNGOの傘下で働いてきましたが、不都合が生じたため、心の傷を癒す働き専用のNGOを立ち上げる決断をしました。しかしながら、働きの内容や場所、理念など、これまでと何ら変わることはありません。

昨年の6月より書類を準備し、9月より役所と交渉して12月31日、中央省庁より認可され認定証を受理しました。ここに至るまでは、苦闘の連続でした。役所に終日詰めても関係者に会えず徒労に終わった日、何度も書類を手直し、時に深夜まで書き直し翌早朝、片道2時間を要する地方の役所へ提出するなど、9月の半数は地方の役所との交渉に費やしました。手続きの最終盤に入った12月下旬、中央の省庁へはほぼ毎日、時には2回出向いた日もありました。

こうして手にした認定証をリリマのスタッフたちに見せたところ大喜びで、中には涙するスタッフもありましたが、歌って踊って神さまを讃美し感謝を捧げたことでした。困難が大きかっただけに、喜びと感謝が大きい、と言えるでしょう。

NGOの名称は、ルワンダ語でITABWEHO(イタベホ)、この意味は「愛すること、世話すること、癒すこと」などであり、字義通り私たちが行っていることです。冒頭が、このシンボルマークです。

私たちの働きの特徴は、以下の通りです。

- 1 心の傷を癒すために心理学(精神)的だけでなく、全人的なアプローチを行う。つまり、心理的、肉体的、社会的、霊的な支援を行う。
- 2 心に傷を負った女性だけでなく、彼女の家族(子どもたち)をも含めて支援を行う。
- 3 必要な人には、シェルターを提供し、我々の保護下で生活を共にしてケアを行う。
- 4 支援する受益者は、ひとり一人を大切にするため30人余りの少人数とする。

以上は、我々独自のものであり、理念とも言える基本的考え方です。

二つ目は、財政難に直面したことです。規模を問わず、どこの NGO でも何度かは直面する問題であり、活動資金に関することは NGO 共通の課題です。

私たちの働きが 2015 年 2 月から始まって 2018 年まで続けられたのは、驚きですが、資金が欠乏した理由は 2017 年受益者一家の家を建築したこと、リリマでの働きが徐々に充実し、スタッフも受益者も増えそれに伴い活動資金が増えていったことなどに因ります。

資金不足は、9 月から 12 月までの 4 か月間でした。短期間銀行から借りることも考慮しましたが金利が高いため、この方法は取らず、残る選択肢は誰かから借金をすることでした。私は 1993 年からソマリアなど治安の悪い国々へ遣わされ、爾来借金しないことを信条にしてきましたが、子供たちの殆んどが私たちの所に来た時、栄養失調で飢えを凌いだ経験を有し、私の信条など論外でした。

祈り、悩んだ末、日本人の友人に借金を申し出ると、驚いたことに快諾してくださり、「借用書は不要・・・」とまで言われるのでした。この友人から、アメリカドルで 6000 ドルを借用しました。

更にもう一人、ルワンダ人の友人が献金を申し出て下さいました。彼女と出会ったのは、大虐殺が起きた 1994 年、私が派遣された難民キャンプでした。彼女は、夫を大虐殺で亡くし 4 人の幼い子供を連れて難民として居住し、私が属していた NGO で働いていました。以来今日まで、彼女はこの NGO で働いていますが、彼女と私は定期的に祈る時を持っています。彼女は、「あなたの働きは、ルワンダに必要です・・・」と言って、日本までの航空券を購入するようにと 1600 ドルを捧げられたのでした。

私は、10 月の下旬帰国し、12 月アメリカのアリゾナ州にある中国人教会を訪問しました。この教会との出会いは、2007 年ルワンダの南西部・ギタラマと言う地方都市でした。

この教会のモットーは、礼拝堂や建物にお金を使うのではなく、宣教の働きに用いることとし、一か所、或いは一つの国に対して 10 年間支援を続け、毎年有志たちが現地を訪問し、短期間奉仕をしています。2007 年当時、この教会は私が属していた NGO を通して地方の小学校の教室を増築し、お手洗いの建築や校庭の整備など 10 年間に渡って支援を行っていました。現在、カンボジアとネパールを支援しているそうです。

私がこの教会を初めて訪問したのは 2013 年で、今回は神様から「この教会へ行くように・・・」と示されたからでした。この教会で、土曜日の夜と日曜日の午後の 2 回、話しました。話の内容は、窮状を訴えたのではなく、教会側の提案で、「私の信仰について」と「ルワンダでの働きについて」でした。そして、教会と教会の人たちの捧げられた献金の総額は、何と驚いたことに私が借金した額に近い 5617 ドルでした。

私は、涙しました。それは、友人たちの行為（好意）、中国人教会とその教会の人たちの信仰、そして私を導き助けて下さった神さまへの感謝と感動の涙でした。困難の中で逃れる道を与え、祈りに応えてくださる真実な神様、この方からこの働きに召された者として真剣にかつ誠実に応えてゆかなければならない、と思いを新たにしました。

一連の財政難に対して起きたことは、神様がなされたことでした。この御業を、私ひとりの胸に留めておくべきではない、と考え、証しとしてこのニュースレターに掲載しました。

昨年 1 年間、ありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願い致します。皆様にとって、2019 年が幸いな 1 年でありますようにお祈りいたします。

在 主  
キガリにて  
2019 年 1 月  
竹内 緑

### 竹内さんの生き方

竹内さんとは以前同じ NGO にいたことがあり、かれこれ知り合ってから 27 年ほどになります。竹内さんは緊急援助の働きを経て、今はルワンダのトラウマに苦しむ女性や子供たちのために活動されていますが、私が、竹内さんから一貫して学ばせていただくのは、その献身的に生きる姿です。竹内さんからは、自分を喜ばせるという思いをほとんど感じたことはありません。自分に与えられた時間や財のうち、自分自身に使うのは必要最低限であることは想像に難くないのです。

竹内さんの謙遜で控えめな態度、またとびきりの忍耐を伴った実行力には、いつも驚きながらの年月でした。竹内さんの生き方に触れるとき、自分の生活を振り返らざるをえません。日本は消費文化に浸り、個人主義が蔓延しています。効率や速さを求めると「つながり」が邪魔になるそうですが、確かに「孤人」が増え、愛も冷えて大きな社会問題になっています。そのような時、竹内さんが、ルワンダで、傷ついた一人ひとりに丁寧に向き合い、時間と忍耐の上に築かれる関係性で、家族を超えた新しい「つながり」によって回復していく方々の様子を伺うときに、本当に大切なものは何かを教えられます。

日本の闇に大きな問いを投げかけられるような竹内さんの働きを、特に日本の多くの女性に知っていただき、応援の輪でつながっていかれたらと思っています。

須山弘子

## 受益者が暮らす支援センターの様子

私たちは、現在8家族29人を支援していますが、そのうちの2家族の支援を終了することにしました。2家族、2人の女性たちのトラウマは共に虐殺によるものです。終了の目安となることは、トラウマの症状の軽減、状況の改善、そして経済的自立の目途が立つことです。一家族は、これら3点が満たされましたが、残る一家族は未だ課題が残るものの本人の強い希望があり終了することになりました。この2家族が、写真のアタナジィ（写真上）とアルフォンシン（写真下段、ミシンを踏んでいる女性）の家族です。4年前に支援を始めた当初と比べると、彼女たちも子供たちも良い意味で大きく変わりました。



毎年、受益者の中から洗礼者がでますが、昨年は17歳（写真中段、左）と11歳（写真中段、右）の女性の2人でした。17歳の女性は、両親がなく祖父母と暮らしていましたが、祖父母から虐待され昨年5月センターへ受け入れました。一方、11歳の女兒は、実母が売春婦で昨年1月交通事故で亡くなり、その後女兒はレイプされました。7月、女兒と妹をセンターへ迎え入れ、9月に写真の2人が受洗しました。共に、明るくなり精神的に落ち着いてきました。17歳の女性は、現在小学校4年生、センターへ来るまでの成績は49人中、48番でしたが、センターで生活をするようになって49人中10番と急上昇しました。11歳の女兒は、今年に入ってから小学校へ入学し2年生で、喜びつつ通学しています。現在、彼女と妹を受け入れる養家を探しています。

このように変わってゆく人たちを目にするのは、大きな喜びです。再度、皆様のご支援にお礼を申し上げます。

このように変わってゆく人たちを目にするのは、大きな喜びです。再度、皆様のご支援にお礼を申し上げます。



## 2018年支援金の報告（1月1日～12月31日）

竹内緑を支えるルワンダの会への支援金有難うございます。竹内緑氏のルワンダでの活動の様子につきましては、ニュースレター及びホームページでお伝えしていますが、ルワンダでの活動が4年を経過しました。昨年末に竹内緑氏が代表者となるNGO法人「ITABWEHO」が設立され、これまでの活動をさらに充実して継続することとなりました。与えられた活動資金をやりくりし、頑張っている様子ではありますが、やはり資金不足が活動を制限している様子がうかがえます。皆様の更なるご支援よろしくお願いいたします。

### 正会員の方々（敬称略、順不同）

久留米聖書教会、藤永芳美、中本孝志、酒巻佐代子、下田ひとみ、林誠子  
大門節子、吉田由起子、慎光晟、麦の会成田節子、岩淵由紀子、岡ふみ子  
齋川啓子、三木紀昭、山室勝子、片山登美子、竹内和子、森田哲也・いずみ  
松井茂美、武宮眞理子、奥田育子、前橋京子、杉山将洋、西村博美・保興子  
中山和子、中島幸一郎、あやめ池基督教会、須山弘子、吉田和夫・淑子  
田中美代子、金子玲子、岡田栄子、門倉治美・京子、谷口香与子、慎貞子  
端戸朋子、端戸頼樹・珠代、最上和彦・さおり、勝原洋子、永田京子、  
中原伸一郎、江原雅子、舛水淳子

### 賛助会員の方々（敬称略、順不同）

柳沢美登里、荒木正三、大下美保、吉田郁子、木下伸子、大西雅廣  
臼井安紀子、山内啓子、六浦寿子、深井光

### 寄付を頂いた方々（敬称略、順不同）

大田径子、中山春美、母子生活支援施設のぞみ、児玉慎一、樋口シズ子、  
中嶋和美、福田眞弓、日本基督教団八頭教会、河合朝子、中島信子、辻雅彦  
福岡女子学院看護大学宗教部、鳥取福音ルーテル教会ルワンダ支援会、  
牧江享子、坂田陽子、下田富紗恵、猪股千穂子、幡江美智子、露芝経子  
中山春美、林多美子、津村宏子、藤永芳美、稲城聖書教会、田谷啓子、  
道祖尾博子、日本同盟基督教団、あすか野キリスト教会、忍ヶ丘基督教会  
藍原茂子、臼井安紀子、小崎正光、高岡バプテスト教会・教会学校、佐藤園子  
日本基督教団湯沢教会、福嶋智恵子、上野芝キリスト教会、パレアナの家  
高岡バプテスト教会、赤碕キリスト教会、日本基督教団目白教会、増田千尋  
溝口葉子、西村順子、林仁美、廳和子、井上美栄子、富田由美子、下田由利子  
岸本栄子、大隅まり子、国際ソロプチミスト鳥取（はまなす賞）、盛岡聖書バ  
プテスト教会、鳳城人基督教会（アメリカ）、Joyce&L.C.Thiang, Zui& Lydia  
Young, Bryan&Angel Chow, Hodges 一家、Kathy & Derek, Jess D. Dage,  
Espreance, 渡辺久美子、西本桂子、イズーバ・照子、根本千里、籠田綾、

## 会計報告

### 収入 (2018年1月～12月31日)

2017年繰越額	920,886円	
	(銀行口座	194,906円)
	(振込口座	725,980円)
2018年郵便振込額	1,711,801円	
2018年銀行振込額	490,000円	
受け取り利息	1円	
合計	3,122,688円	

### 支出 (2018年1月～12月31日)

竹内緑氏活動費	2,499,999円
(2018年活動費)	
ニュースレター印刷、発送	39,920円
事務費(郵便振込手数料等)	18,610円
合計	2,558,529円

### 2019年繰越金 564,159円

(銀行口座	238,488円)
(振込口座	325,671円)

竹内緑氏活動費概略 (2018年) 受益者が暮らす支援センター 維持費 \$10,659 (内 スタッフ給与 \$7,118) 竹内緑氏 ルワンダ活動費 \$5,500 航空運賃等 (ルワンダ～日本) 196,798円
--

この会計報告には、竹内緑氏報告の中のルワンダの友人からの1,600ドル及びアメリカの中国人教会からの献金5,617ドルは含まれていません。

## ご支援・ご協力をお願い

会費及び寄付金をお願い

「竹内緑を支えるルワンダの会」の活動にご賛同くださる方は、是非ご支援とご協力を頂けますようお願い致します。

年会費 (会計年度1月1日～12月31日)

- ・会 員 一口5,000円
- ・賛助会員 一口2,000円

※会費以外の寄付も随時お受けいたします。

### 会費・ご寄付の送金方法

#### ○郵便振込

(別紙払込取扱票又は郵便局備付けの払込取扱票をご利用ください。)

郵便振替口座：01330-5-102074

加入者：竹内緑を支えるルワンダの会

#### ○郵貯銀行振込

郵貯銀行口座 記号15250 番号3593801

ご連絡・お問合わせ先：「竹内緑を支えるルワンダの会」事務局 〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷224-1 日本キリスト教団八頭教会内 電話 0858-72-0075 E-mail: mtakeuchi_rwanda@yahoo.co.jp (竹内緑個人アドレス)
--

